

糞

排泄物はいつまで
〔私〕なのだろうか。

粘菌

「身体」を、環境から独立した単独の存在としてではなく、
複数のものたちがそこに棲まい、協働し、協奏する
「共生—共死圏」としてRe-Formすること。

OHROJIMA maki Correspondances



川は、山から流れる
僕らの血だろうか。

珊瑚



炭素、酸素、水素、窒素、
カルシウム、リン、カリウム
一星々と私たち生き物は
同じ原子から出来ている。

海

私は海の上で大きな鯨の死骸を見た。生きている時
は多くの命を食べていただろうその鯨が、その時、多
くの命によつて食べられ、海の中へと溶け込んでいこう
としていた。途方もないほどの永い時間、繰り返され
てきたことだ。まるで「生命のスープ」だと思った。

つくりかけラボ 09
大小島真木
コレスポンドダンス

2022年10月13日[木]-12月25日[日]

開館時間 | 10:00-18:00(金・土曜日は20:00まで)
休館日 | 11月7日[月]、12月5日[月] 会場 | 千葉市美術館4階 子どもアトリエ
観覧料 | 無料 主催 | 千葉市美術館

※会期中、会場内メンテナンス作業を予定しています。作業日・時間帯については
美術館ホームページでお知らせいたします。なお、作業中は室外からご覧いただけます。

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art



人間を意味するヒューマンの語源は
「腐植土」を意味するラテン語のHumusから。

つくりかけラボ 09

大小島真木 コレスポンドンス

つくりかけラボは、「五感でたのしむ」「素材にふれる」「コミュニケーションがはじまる」いずれかのテーマに沿った公開制作やワークショップを通して空間を作り上げていく、参加・体験型のアーティストプロジェクトです。いつでも誰でも、空間が変化し続けるクリエイティブな「つくりかけ」を楽しみ、アートに関わることができる表現の場です。

今回は、美術家の大小島真木さんをお迎えします。大小島さんはこれまで、描くことを通じて、生き物を包み込む森や繁殖する菌、国境をまたぐ鳥、覚醒する猿など、様々な生物のまなざしを自らの内に宿し、万物の記憶の集合体としての世界のありようを追求してきました。「人間以外の目線で世界を語る」というテーマのもと、会期中繰り広げられる「ゲスト」たちとのトークや、来館者たちとの往復書簡を糧に、アーティストがどのような空間を作り、変化させていくのか、目が離せなさそうです。



《土のアゴラ/ Agorá of Multi Species》photo by Kenji Chiga



アーティストからのメッセージ

気持ちの良い一陣の風を肌に浴びたとき、この爽やかな風は誰かが遠い昔に放ったひとすじの溜息なのかもしれないと思うことがある。名前も知らない誰かの口からふと溢れでた溜息は、樹木や草花の間を通り抜けながら増幅し、大地や海原の馥郁たる匂いをその身に纏わせ、やがて渡り鳥たちと共に天空を舞い、物理的にも時間的にも遠く離れたところにいる私の肌に今たまたま触れただけなのかもしれない。そんな風に思うと、私が生きているちっぽけなまこが、時間も空間も超えて世界のあらゆる時代、あらゆる場面と繋がっているかのような気持ちになる。もちろん、溜息ばかりとは限らない。そこには太古の三葉虫のおならだって含まれているかもしれないし、深海プレートの亀裂から漏れ出た天然ガスだって含まれているかもしれない。世界ではいつだって無数の色が、音が、香りが、味わいが、感触が、始まりも終わりもなく反響しあっている。とどまることを知らない万物照応。それはあたかも差出人も受取人も定まっていな文通のように、私たちを私たちへと関係づけていく。ところで、あの気持ちの良い風を起こした人は、どんな気持ちで溜息をついていたのだろう。今回のつくりかけラボでは、皆さんと一緒にそんなことを想像してみたいと思う。

大小島真木 おおこじま まき

1987年東京生まれ。インド、ポーランド、中国、メキシコ、フランスなどで滞在制作。2014年にVOCA奨励賞を受賞。2017年にはアニエスベーが支援するTara Ocean 財団が率いる科学探査船タラ号太平洋プロジェクトに参加。「クノチテクマナツノボウケン」(2021年、KAAT)で舞台美術を手がける。主な参加展覧会に、「いのち耕す場所」(2019年、青森県立美術館)、「瀬戸内国際芸術祭-粟島」(2019年)、「Re construction 再構築」(2020年、練馬区立美術館)、「コロナ禍とアマビエ」(2022年、角川武蔵野ミュージアム)、「地つづきの輪郭」(2022年、セゾン現代美術館)。主な個展に、「鳥よ、僕の骨で大地の歌を鳴らして」(2015年、第一生命ギャラリー)、「L'oeil de la Baleine/ 鯨の目」(2018-2019年、フランス・パリ水族館)。主な出版物として「鯨の目」(2020年、museum shop T)など。

関連イベント

本プロジェクトの一環として、会場に語り部をお招きし、「万物が語る」というコンセプトのトーク(パフォーマンス)を開催します。このトークにおける「ゲスト」はあくまでも人間以外の存在、たとえば動物、菌、糞、あるいは山などのさまざまな存在です。語り部の方々には、そうした「ゲスト」の代弁者として「ゲスト」になりきっていただき、その視線から、世界のこと、人間のこと、自分のことについて、講演を行っていただきます。後半は語り部と大小島による対談を行います。

日程	ゲスト	語り部
10月16日[日]	山	石倉敏明(人類学者・神話学者)
10月23日[日]	猿	足立薫(霊長類社会学者)
10月29日[土]	粘菌	唐澤太輔(南方熊楠研究者)
11月5日[土]	珊瑚	アグスティニ・シルバン(海洋生物学者)
11月13日[日]	糞	伊沢正名(糞土師)
12月23日[金]	身体	北村明子(振付家・ダンサー)

www.ohkojima.com

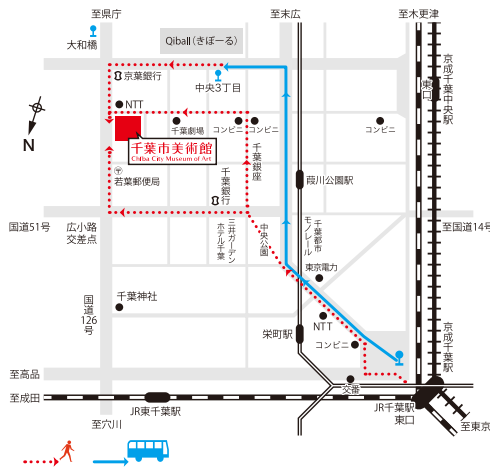
※作家滞在スケジュールやイベント、ワークショップなどの詳細はホームページでご確認ください。

- JR千葉駅東口より 徒歩約15分
バスのりば7番より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分/千葉都市モノレール県庁前方面行「霞川公園駅」下車徒歩約5分
- 京成千葉中央駅東口より 徒歩約10分
- 東京方面から車では 京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く
※地下に機械式駐車場があります(車高155cmまで)。
※シェアサイクルスポットがあります。

※館内に新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております。
・体調のすぐれない方はご来館をご遠慮ください。
・咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒の徹底にご協力ください。
※内容やイベントが変更になる場合があります。最新の状況はホームページをご確認ください。

千葉市美術館 Chiba City Museum of Art

〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
Tel: 043-221-2311 (代) <https://www.ccma-net.jp>



次回予告
つくりかけラボ 10
原倫太郎+原游
「RE 幼年期ディスカバリー」
2023年1月14日[土]-4月2日[日]